

## 令和元年度 F D 実施報告書

<b>研究科</b>	教育学研究科		
<b>F D 取り組みへの理念・目標</b>			
<p>次世代の地域ニーズに応じたりカレント教育の確立ならびに研究の出来る小学校教員・幼稚園教員の育成を目標として、教育と研究の質的向上に取り組み、組織的教育研究体制のより一層の充実に努める。</p>			
<b>回数、期間、実施日等</b>	<b>実施事項・内容、実施組織、評価項目等</b>		
通年	<p>1. 修士課程（社会人1年制）を含む入学定員充足率の向上への取り組みについて            教員間の情報交換を密に図りながら情宣活動に努め、学校等訪問時に情宣を行った他、燦倫会総会（11月23日）にて情宣を行った。            秋期入学試験（10月19日）で2名、春期入学試験（2月15日）で2名、計4名の入学予定者を得た。</p>		
6月27日 11月28日	<p>2. 大学院新カリキュラムの検討について            教員の負担軽減の観点から、昼夜開講制の効率的運用について検討した。            大学院学生便覧に示す単位取得要項を分かり易く修正した。</p>		
(3月5日)	<p>3. 教育効果の向上を推進することについて            FD推進のため、研究科FD研修会を以下の通り計画し準備を整えたが、政府から発表された新型コロナウイルス感染対策に沿い、実施予定日の8日前（2月26日）に急遽中止とした。            日 時：令和2年3月5日(木) 13:30～15:0            講 師：山田礼子 氏（同志社大学 社会学部 教育文化学科 教授）            テーマ：地方私立大学の大学院の役割</p>		
通年	<p>4. 研究成果を大学院教育へ還元することについて            科研費採択率の向上を目指し、研究指導（補助）教員の今年度科研費採択率は50%に達した。また、研究指導（補助）教員の次年度科研費申請率は100%を達成した。</p>		
<b>「教育システム改革 2014 (FD2014)」の進捗状況</b>			
<b>項目</b>	<b>主な実施内容</b>	<b>進捗状況</b>	<b>補足説明</b>
授業科目の組織的な管理	ルーブリックの導入	<input type="checkbox"/> 未着手 <input checked="" type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 実施済	特別研究（修士論文）の評価基準を集約できている。
教員の教育力に対する評価の導入	授業アンケート結果の組織的な活用	<input type="checkbox"/> 未着手 <input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 実施中 <input checked="" type="checkbox"/> 実施済	授業アンケートを実施した。

教育方法の改善	<b>アクティブラーニング</b> <b>(特に PBL) の推進</b> <b>PBL : 課題解決型授業</b>	<input type="checkbox"/> 未着手 <input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 実施中 <input checked="" type="checkbox"/> 実施済	大学院での学修は基本的にアクティブ・ラーニングといえる。
グローバル教育の推進	<b>グローバル教育の導入</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 未着手 <input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 実施済	

「FD2014」はサイボウズのファイル管理－「FD 推進センター」にあります